



様式第1号 (第8条、第9条関係)

事業者行動計画書 (変更計画書)

2018 年 7 月 31 日

(宛先)

滋賀県知事

提出者
住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)
福井県鯖江市下河端町第6号1番地1
氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)
KBセーレン株式会社
代表取締役社長 寺前 勝基
(代理人)長浜工場長 中村 健朗

滋賀県低炭素社会づくりの推進に関する条例 (第20条第3項・第20条第4項・第22条第1項・第22条第2項において準用する同条例第20条第4項) の規定に基づき、事業者行動計画を 策定 (変更) したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	KBセーレン株式会社 代表取締役社長 寺前 勝基
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	福井県鯖江市下河端町6号1番地1

1 事業所の概要

事業所の名称	KBセーレン株式会社 長浜工場					
事業所の所在地	滋賀県長浜市鐘紡町1-11					
主たる事業	細分類番号	1	1	4	8	繊維雑品染色整理業
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワットル以上の事業所を県内に有する事業者				
	<input type="checkbox"/>	従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者				
	<input type="checkbox"/>	任意提出事業者				

2 計画の内容

計画の内容	別添のとおり
-------	--------

注 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とします。

1 計画期間

計 画 期 間	2018	年度 ~	2023	年度
---------	------	------	------	----

2 低炭素社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

環境保全に努め、美しい地球環境を実現

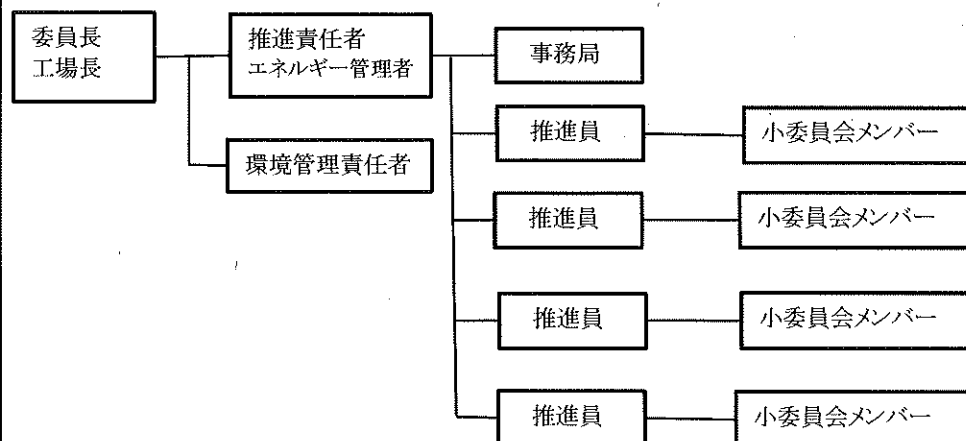
環境への対応を従来から重要課題として位置付けて来たKBセーレンは21世紀も、かけがえのない地球環境を私達の子孫に残して行くために、製品の開発、生産、流通、消費、廃棄に至るあらゆる段階において環境保全に対応し、省エネルギー活動にも積極的に取組みを進め、電力や燃料の使用量の削減に努めています。原料となる化学物質の安全性に関し、法規制や地域の公害防止規定を遵守し、大気や土壌の保全に対し「ゼロエミッション」をテーマに管理しています。

- 1.環境法規制等、当工場が同意するその他要求事項を遵守し、環境汚染の防止に努めます。
- 2.特に次の事項について重点的に行います。
 - (1)琵琶湖水質汚濁防止
 - (2)地球環境を視野に入れた省エネルギー、省資源
 - (3)廃棄物の適正管理とその削減及びリサイクルの推進
 - (4)科学物質の適正管理
 - (5)周辺景観を考慮した環境活動
- 3.環境に関する目的・目標を設定し、工場内の環境管理体制の一層の充実と見直しによる継続的な改善に努めます。
- 4.環境教育・啓蒙活動を実施して、全従業員の環境方針の理解と環境問題に対する意識向上を図ります。

3 低炭素社会づくりに係る取組に関する推進体制

長浜工場におけるエネルギーの使用の合理化を推進するために工場長を省エネルギー委員長とする委員会を設置する。委員長は省エネルギーを推進するため、エネルギー管理者を省エネルギー推進責任者とし、各部署より夫々推進員を任命する。省エネルギー委員会は工場長、環境管理責任者、エネルギー管理者、推進委員で構成され事務局は施設管理係が担当する。

省エネルギー委員会



備考 組織図を記載し、役割分担および責任者の役職を記入してください。

(第2面)

4 これまでに取り組んできた低炭素社会づくりに係る取組

省エネルギー設備の導入については計画的に実施

1. 環境(用・排水)設備のインバーター化
高効率水中攪拌機導入
排水処理加圧水ポンプインバーター化

2. 設備関係

- 高効率モーター使用
- コンプレッサーの高効率化
- 照明設備の省エネ化
- 空調設備の省エネ化への移行

電気設備の更新

1. 各変電所高効率化トランスの順次移行

省エネ委員会での取り組み

1. 節電・節水パトロール
2. 工務室・休憩室の室温管理
3. エアコンフィルター掃除状況確認

(第3面)

5 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	取組の内容	実施スケジュール
1	設備導入	受電所・変電所トランス更新	2020年
2	設備導入	照明設備LED化	2018年
3	運用	エアーコンプレッサー省エネ改善(運転吐出圧力適正化)	2018年
4	運用	省エネ委員会によるエネルギー削減対策、省エネパトロール強化	2018年8月
5	運用	クリーンルーム室温管理、検査室休日エアコン停止、長期離席のときの照明・空調・パソコン遮断	2018年8月
6			
7			
8			

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	取組の内容	実施スケジュール
1			
2			
3			

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

上記(1)取組等により前年度を基準とし下記のとおり数値目標の達成を目指します。

原単位 エネルギー使用量(原油換算)/生産数量(重量)

2017年度実績値:1.134(l/kg) に対し1%削減 2018年度目標値:1.12(l/kg)

2018年以降も対前年度比1%削減を目標とする。

原単位の考え方

エネルギーの使用量は、生産数量に大きく影響を受けるため

生産数量を原単位の指標(分母)として設定しました。